

## 開発事業の目的及び内容

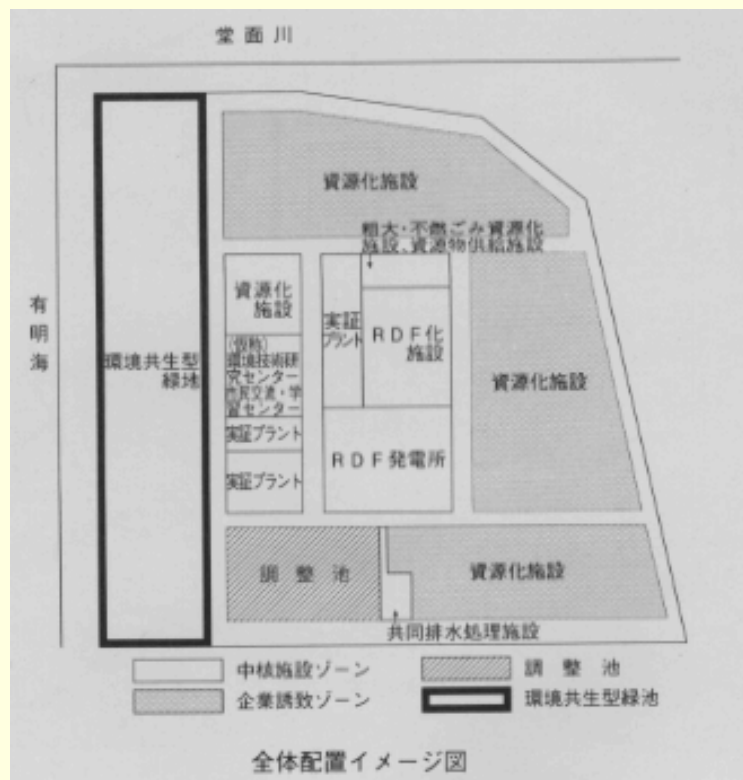
RDF発電所を核とする拠点整備事業は、地場の環境産業の育成、広域連携による資源循環型社会の構築を目指し、従来ややもすると負のイメージを持たれがちだった廃棄物資源化施設に対して、これら諸施設の有機的連携と本計画独自の環境制御システムを有効に機能させ、環境との共生、計画地内ゼロ・エミッションシステムの形成を目指すものである。

すなわち、廃棄物資源化施設群や市民の交流・憩い・環境問題への学習の場、並びに環境技術開発支援、地場の環境産業育成支援、環境に関する技術情報、製品情報の流通・発信機能等多彩な機能を持った諸施設を整備し、高度な産業技術の導入を図るとともに、かつて日本の鉱工業発展の牽引役を果たした大牟田市の高度な技術蓄積の活用及びこの技術を支える中小の企業の振興を図り、大牟田市第三次総合計画において描かれている「快適環境都市」、「産業創造都市」、「市民交流都市」の形成の一助とするものである。

## 土地利用計画

本事業における土地利用計画は以下に示すとおりである。

利用区分	面積(ha)	比率(%)
中核施設ゾーン	12.3	19.7
産業廃棄物資源化施設ゾーン	20.5	32.8
環境共生型緑地ゾーン	22.2	35.5
道路	7.5	12.0
合計	62.5	100.0



# 整備予定施設の概要

事業実施にあたり、整備が予定されている施設は以下のとおりである。

施設名称		概要
中核的支援施設	(仮称) 環境技術研究センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境モニタリングシステムなどによる計画地内の環境制御</li> <li>● 実証試験の導入・支援を含む環境関連技術の開発、地場企業の環境・リサイクル事業への取組み等の支援</li> <li>● 環境関連情報の提供・支援</li> <li>● 社会的なリサイクルシステム整備等のソフト面に係る研究等の機能を想定する</li> <li>● 施設規模：3,000㎡程度</li> </ul>
	市民交流・学習センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>● (仮称)環境技術研究センターの情報機能及び環境共生型緑地における自然観察並びに立地企業資源化施設見学等とおした学習の場</li> <li>● 環境学習や再生工房を活用した、交流とリサイクル活動への参画の場</li> <li>● 市内等におけるリサイクル活動の拠点</li> <li>● 施設規模：1,000㎡程度</li> </ul>
資源化施設	R D F 化 施 設	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大牟田市及び荒尾市から発生する可燃ごみのR D F化施設</li> <li>● 施設規模：220 t/日</li> </ul>
	R D F 発 電 所 R D F 焼却灰資源化施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 広域連携R D F収集システムを確立し、R D F発電所、発電後の焼却灰資源化施設を隣接して配置する</li> <li>● 広域連携によるダイオキシン対策及び効率的環境対策並びにサーマルリサイクルの実現を図る</li> <li>● R D F発電所施設規模：315t/日、発電出力：20,000 kw以上を目指す</li> </ul>
	粗大・不燃ごみ資源化施設 資源物供給施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大牟田市及びその周辺地域から発生する一般廃棄物の資源化施設</li> <li>● 施設規模：135t/8hを想定</li> </ul>
	産業廃棄物資源化施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃家電、ガラス及び陶磁器くず、木くず、紙くず、建設廃材等の資源化施設群</li> <li>● 石炭灰、廃農業用ビニール、廃FRP船等地域の特徴的廃棄物については、導入の方策を積極的に検討する</li> </ul>
環境共生型緑地		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民交流の場</li> <li>● 憩いの場</li> <li>● 自然観察の場</li> <li>● 計画地内から発生する処理水・雨水等を活用した調整機能を持つ親水池を設け、計画地内の水循環システムを形成する</li> </ul>

注) 施設の種類、導入時期等は、実際の立地にあたって、本計画の趣旨との合致・資源化技術の進展・地域のニーズや社会情勢の変化等、複数の要因から決定され则认为られる。